

2020年度の野球規則改正が今日(27日)にNPBのHP(http://npb.jp/news/detail/20200127_01.html)で発表されました。昨年12月18日に行われたプロアマ合同の日本野球規則委員会で決定されたものです。

今回の改正の特徴の一つは、英文の改正に倣って、走者がフェアの打球にフェア地域で当たった場合の従来の解釈を変更したことです。

走者が打球に当たった場合、走者がフェアボールにフェア地域で触れた場合はアウトになるようになりました。これまでは走者が内野手（投手を除く）を通過していない打球に触れた場合にアウトということだったんです。つまり、例えば走者2、3塁で内野が走路より前に前進し、打球が内野手間を抜けてから2塁走者に当たった場合は、アウトとはならずそのままプレーが続けられました。これが、内野手が走路より前に前進していても、間を抜けて走者に当たった場合はアウトをとるように変更されたのです。

ただし、内野手のトンネルなどミスが絡み、打球が通過した後に当たっても、アウトにはなりません。たとえば遊撃手が正面でトンネルをし、その後ろにいる2塁走者に当たった時は、すでに守備機会を終えていることもあってアウトにはなりません。

これが5.09 (b) 部分の改正になります。

また、投手の投球姿勢についても、“投球動作”と“投球に関連する動作”を明確に区別する改正を行うとともに、“二段モーション”を規制するために長年にわたって採用されてきた条文の改正などが行われました。5.07 (a) (1) の部分ですね。

5.10 (g) の後段については、アメリカで打者1人のワンポイントリリーフができなくなる改正をしたという話題に関連しますが、マイナーリーグとなっていますので、今シーズンの日本の野球で採用とはならないことが多いでしょう。

忘れてはならないのは高校野球特別規則とアマチュア野球内規の2020年度版は来月発表される予定ということです。高校野球では公認野球規則、アマチュア野球内規、高校野球特別規則の3つに沿って行われるため、高校野球関係者の皆さんは、全てが出そろってからの対応が求められます。

高校野球特別規則とアマチュア野球内規の2020年度版が発表されてから、あらためて整理したいと思います。

なお、公認野球規則は例年3月中旬以降に書店などでも市販されますので、選手や野球に関係する方はぜひ1冊手にすることをおすすめします。